

平成 27 年度第 4 回元気な地域づくりを考える首長研究会

ー 超高齢社会の課題解決策「元気づくりシステム」いなべ市スタイルから学ぶ ー

開催趣旨：

高齢者健康政策「元気づくりシステム」導入自治体では、同システムを運用する中で育成された参加高齢者を中心に、「住まいを含めた地域での生活活動を通して“生涯元気に生き抜く”」をテーマとして住民が繋がり、これからの半世紀を見据えた元気な地域づくりが始まっています。そして、同システムの元気高齢者を繋ぐコミュニティ手法が、「地域包括ケアシステム」のプラットフォーム基軸として期待されています。

本首長研究会としては、「地域包括ケアシステム」（医療・介護・介護予防・生活支援・住まいの機能連携）は、サービス提供者側の視点で構築される政策（合理的ケアシステム）と考え、「元気づくりシステム」を基軸に据えた「地域 PU システム」を考案し、「地域包括ケアシステム」をサステナブルに半世紀機能させたいと考えました。いわば、サービス活用者側の視点（地域住民による幸せな生活の場づくり）に立った政策提言となっています。「地域 PU システム」は、平成 28 年中には三重県いなべ市において、市内を網羅する形（集会所等 80 カ所以上の元気リーダーコースを活用）で完成し、サステナブルな状態となるに至ります。

そこで 1 月 29 日の研究会では、テーマを「超高齢社会の課題解決策『元気づくりシステム』いなべ市スタイルから学ぶ」として、「地域 PU システム」を徹底研究します。既に本年度から総合事業を実施する福島県伊達市、平成 28 年度から実施予定の広島県北広島町、平成 29 年度から実施予定の熊本県南関町も、同システム導入による総合事業のプラットフォーム形成を目指しており、意義ある意見交換の機会といたします。

<研究会>

日 時：平成 28 年 1 月 29 日(金) 13:00～17:00

会 場：PhilPort（フィルポート）会議室（添付の地図をご参照下さい）

東京都港区新橋 2-20-15 新橋駅前ビル 1 号館 4 階 03-6280-6540

主 催：一般社団法人元気なまち協創日本、一般社団法人元気づくり大学

対象者：自治体の首長及び政策担当職員、元気づくり大学関係団体職員、他

テーマ：超高齢社会の課題解決策「元気づくりシステム」いなべ市スタイルから学ぶ

出席者：日沖 靖（三重県いなべ市 市長）、仁志田昇司（福島県伊達市 市長）

箕野博司（広島県北広島町 町長）、佐藤安彦（熊本県南関町 町長）他（以上予定）

進 行：大平利久（元気づくり大学 学長）、浜田靖彦（元気なまち協創日本 代表理事）

会 費：2, 000 円（研究会参加費及び資料代）

定 員：50 名

<情報交換会>

時 間：17:30～19:30

会 場：銀座ライオン汐留店（添付の地図をご参照下さい）

会 費：5, 000 円（情報交換会参加費）

問合せ：一般社団法人元気なまち協創日本 代表：浜田靖彦

TEL：03-5614-0782 メール hamada@kyoso-nippon.org

会場のご案内

<研究会>

会場名：PhilPort（フィルポート）会議室

住 所：〒105-0004 東京都港区新橋 2-20-15 新橋駅前ビル 1 号館 4 階

連絡先：03-6280-6540

<情報交換会>

会場名：ピアダイニングライオン汐留店

住 所：〒105-0021 東京都港区東新橋 1-5-3 旧新橋停車場内

連絡先：03-5568-7536

研究会会場地図（意見交換会会場は研究会会場から徒歩 3 分です）



研究会会場の PhilPort（フィルポート）会議室は、地下通路の利用が便利です。

JR 新橋駅汐留口（地下）から、改札を背にまっすぐ正面に向かって地下街の中を進みます。

突き当たりの新橋駅前ビル B1F 入口を入り、奥に進むとエレベーターホールがありますので、4 階へお上がり下さい。

<当日連絡先>

080-5387-1559 一般社団法人元気なまち協創日本 代表 浜田靖彦

出欠連絡票 FAX:03-6732-3247 (1月22日(金)〆切り)

平成27年度第4回元気な地域づくりを考える首長研究会に ☐ 出席します ☐ 欠席します

自治体名 (団体名)		担当者氏名		担当者所属	
担当者役職		TEL		FAX	
所在地					
MAIL	@				

ご出席いただける自治体・団体におかれましては、お手数ですが下記にご記入願います。

	出席者(代表)	出席者2	出席者3	出席者4
氏名				
所属				
役職				

出欠表 該当を○で囲んでください

1月29日(金)	首長研究会	2000円	出席 ・ 欠席	出席 ・ 欠席	出席 ・ 欠席	出席 ・ 欠席
	情報交換会	5000円	出席 ・ 欠席	出席 ・ 欠席	出席 ・ 欠席	出席 ・ 欠席

お支払いについて

会費合計	円	円	円	円
ご希望の支払い方法	出席者全員まとめて、 ☐ 後日銀行振込 ・ ☐ 当日現金支払い			
	出席者個別に、 ☐ 後日銀行振込 ・ ☐ 当日現金支払い			
領収書、及び請求書の宛名				

連絡事項記入欄 (研究会に対するご意見、ご希望等についてもご記入ください)

--	--	--	--	--

問い合わせ先:03-5614-0782 一般社団法人元気なまち協創日本事務局

『元気づくりシステム』の普及成果と動向



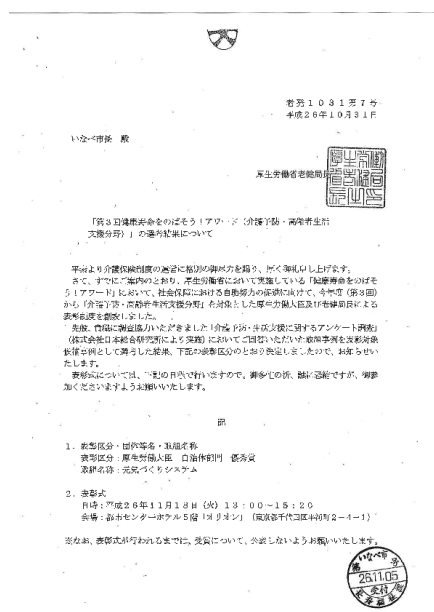
上記『元気づくりシステム』の特筆すべきこととして、同システムが、①平成 27 年度厚生労働省健康局主催の「第 3 回健康寿命をのばそう！アワード 介護予防・高齢者生活支援分野 厚生労働大臣自治体部門 優秀賞」を受賞したこと、②平成 27 年度の文部科学省報告スポーツ医療経済効果を有する政策として自治体から唯一研究対象となり報告されたこと、③総務省自治大学校により、地域創生まちづくりの研究事例として平成 27 年度の教材に採用されたことである。

このことは、介護予防・スポーツ振興・まちづくりを連携する、地域活性化事業として国から随一の評価を得られたものと考ええる。そして同システムが公的に評価を得られたことは、既にシステム運用中の三重県いなべ市、広島県北広島町、熊本県南関町、福島県伊達市にとって導入成果がそれぞれの地域で広く認められることとなった。

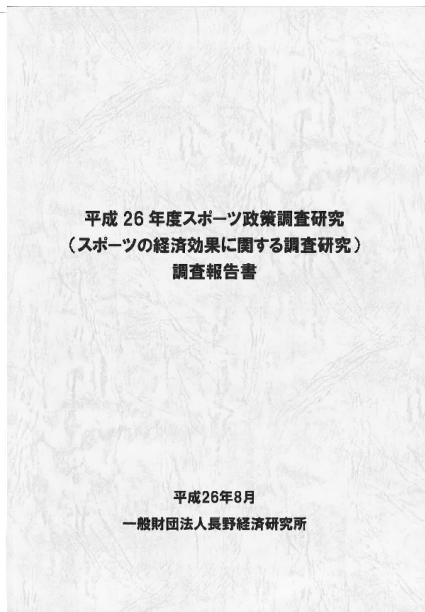
今後動向として、本大学は導入市町村や関連団体等と共同し人材育成研修を充実させ、三重県玉城町、栃木県市貝町等の新たな導入市町村へのスムーズな導入をめざし、さらには超高齢社会の課題解決ツールとして全国市町村への普及拡大を担うことになる。

- ① 厚生労働省 「平成 26 年度第 3 回健康寿命をのばそう！アワード」介護予防・高齢者生活支援分野 自治体部門 優秀賞 選定報告書
- ② 文部科学省 平成 26 年度スポーツ政策調査研究（スポーツの経済効果に関する調査研究）調査報告書
- ③ 総務省 平成 27 年度自治大学校教材「地域創生とまちづくり」

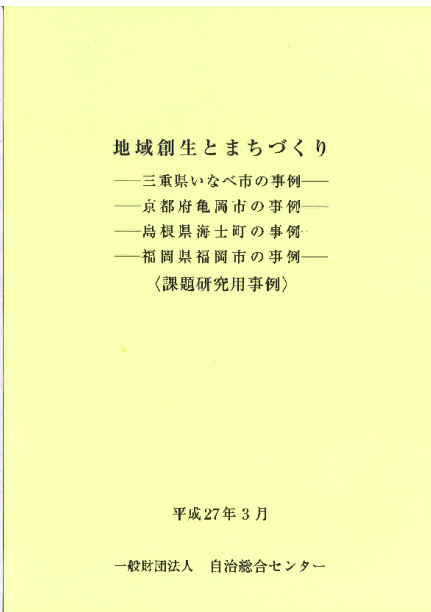
①



②



③



元気づくりシステムのポイント

住民の力を活用した「元気づくりシステム」の運用によって、高齢者を中心とした健康増進活動を進めながら、医療費抑制、医師負担軽減、地域活性化の対策を展開します。

10年を越える歳月を経てつくりあげたシステム！

全3型
6コース
プログラム

通所型 >>> ●元気交流館コース ●楽しむ拠点コース

出前型 >>> ●にこやか集会所コース ●地域出前コース

住民自主型 >>> ●にこやか集会所元気リーダーコース
●楽しむ拠点スポーツリーダーコース

元気づくりシステムの概要

元気づくりシステムの専門コーディネーターが、地域の集会所等でストレッチ、ウォーキング、ボール運動などを実施。

この参加者にプログラム普及としての研修を実施し「元気リーダー」を養成。

元気リーダーは地域で仲間を募り、地域の集会所で習得した元気づくり体操プログラムを実施。

各地域の自治会等と連携協働することで、地域住民の交流を活性化させ、事業として水平展開する。

- 高齢者像や地域のあり方に明るい展望を！
- 地域包括ケア構築の土台に！
- 超高齢社会における新しい文化や価値観を生みだし、子どもたちの未来にも希望の光を！

民間団体 連携 専門家
システム検証
進化事業支援
情報共有

元気づくりシステムの運用
(各市町村・団体)

全国各地でシステムの導入がスタートしています

平成26年度より
「元気づくり大学」
がスタート

元気づくりシステムの
コーディネーターの
養成を行います。

福島県
伊達市

三重県
いなべ市

広島県
北広島町
熊本県
南関町

健康を
切り口に
した
人材育成

元気リーダー養成

元気リーダーの
フォローアップ

持続発展
しやすい仕組み

参加者自らがリーダーとなり
市内各地域の集会所で実施

公衆衛生面
での効果

- 受診回数減少(約2割)
- 医療費抑制(約2割)
- 健康数値向上
- 中核病院のサロン化改善
- かかりつけ医の浸透
- 受診行動の変容 等

中核
病院

各地域で活動
(健康増進の実感
やりがい
仲間との交流)

地域の
診療所等

地域の活性化

自治会

老人会

地域活性化面
での効果

- 元気高齢者の増加
- ネットワークの発生
- 地域活動の発生
(子育て支援、防犯活動、災害時の相互支援 等)
- 互助的見守り機能 等

さまざまな分野の課題を
一体的に改善！

※活動が浸透していない地域や、医師への理解促進の取り組みもスタートしています。